

# 伊万里市スポーツ振興計画

～スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり～



伊万里市教育委員会

## はじめに

近年、自由時間の増大や少子・高齢化の進展など急激に変化する社会環境のなかで、心身の健康の保持増進や地域における連帯感の醸成など、スポーツの果たす役割は重要であるとの認識も高まっています。

このようななか、市民のスポーツへの関心や期待が高まり、そのニーズも高度化・多様化している一方、種目による競技人口や活動の格差、若年層のスポーツ離れ、スポーツ施設の老朽化のほか、国の行財政改革の推進などにより本市も厳しい財政状況に直面しているなど、スポーツを振興していく上での様々な問題が表面化してきています。

このようなスポーツを取り巻く大きな変化に対応し、中・長期的な視点に立ってスポーツ振興を図るため、本市のスポーツ振興計画の策定に向けて、平成17年6月に伊万里市スポーツ振興審議会に「伊万里市のスポーツ振興について」の諮問を行ったところでありました。

伊万里市スポーツ振興審議会では、熱心な議論・審議を重ねられ、平成18年8月に本市における今後のスポーツ振興について、生涯スポーツの振興、競技スポーツの振興、スポーツ施設の整備・充実を柱とする「伊万里市のスポーツ振興について」の答申をいただきました。

本市におきましては、答申を十分に踏まえるとともに、市民の皆さんからも広くご意見をお聞きし、「スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくり」を基本理念として、今後の基本的な方向性や具体的施策などを取りまとめた伊万里市スポーツ振興計画を策定いたしました。

今後は、本計画を本市スポーツ振興の指針として、地域や学校、関係団体等との相互の連携を図り、市民だれもが、いつでも、どこでも生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できる「伊万里」を目指し、更なるスポーツの振興に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご提言を賜りました伊万里市スポーツ振興審議会の委員の皆様をはじめ、関係各位に心から深く感謝を申し上げます。

平成19年7月

伊万里市教育委員会 教育長 岩永憲一良

# 目 次

## 第 1 章 伊万里市のスポーツ振興計画の基本的な考え方

1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の基本理念と目標	2
3. 計画の基本体系	3
4. 計画の期間	3

## 第 2 章 伊万里市のスポーツ振興における現状と課題

1. 生涯スポーツの振興	
(1) 生涯スポーツの普及	4
(2) 情報提供システムの整備	4
(3) 地域スポーツ活動の促進	5
2. 競技力の向上と見るスポーツの場づくり	
(1) 競技力の向上	5
(2) 見るスポーツの場づくり	6
3. 指導者の養成と指導体制の整備	
(1) 指導者の養成	7
(2) 指導体制の整備	7
4. スポーツ・レクリエーション施設の整備充実	
(1) スポーツ・レクリエーション施設の整備	8
(2) 既存施設の充実	8

## 第 3 章 伊万里市のスポーツ振興の基本的な方向性と具体的施策

1. 生涯スポーツの振興	
(1) スポーツに対する市民の意識の高揚	10
(2) 多様なスポーツ活動の充実	10
(3) 地域スポーツ活動の促進	10
(4) スポーツを支える人づくり	11
2. 競技スポーツの振興	
(1) 組織の強化	11
(2) 競技力の向上	12
(3) 見るスポーツの場づくり	12
3. スポーツ施設の整備・充実	
(1) 既存施設の改修及び充実	13
(2) 地域スポーツ施設の整備促進	13
(3) 学校体育施設の開放推進	13
(4) 新たなスポーツ施設の建設	13

資 料	15
-----	----

# 第1章 伊万里市のスポーツ振興計画の基本的な考え方

## 1. 計画策定の趣旨

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものにするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つです。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要な不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を持っています。

また、スポーツを通して住民相互の交流を深めることは、一つの目標に向かい、共に努力し、達成感を味わうことで、地域に誇りと愛着を感じ、地域の一体感や活力の醸成につながるとともに、スポーツの頂点を目指して練習に打ち込む選手の姿は、多くの人々に夢と感動を与え、活力あるまちづくりに大きく貢献するものです。

このようななか、伊万里市では昭和52年に「スポーツ都市宣言」を行い、スポーツを体づくりはもとより、人づくり・地域づくりにも結びつけ、健康で明るい地域社会を形成するため、各種スポーツ施策に積極的に取り組んできました。

しかしながら、自由時間の増大や少子・高齢化の進展など、近年、社会環境が大きく変化するなかで、スポーツを取り巻く環境のニーズも多様化・高度化しています。また、指導者の高齢化や若年層のスポーツ離れなどの問題も表面化してきていることから、市民のニーズや期待にこたえ、市民一人ひとりがスポーツ活動を実践できるよう、スポーツ振興施策を効果的・効率的に展開していくことが必要であります。

このようなことから、本市では、市民だれもが生涯を通して健康を保持し、スポーツに親しみ、夢と感動に満ちあふれた生活が営まれるよう、平成18年8月の伊万里市スポーツ振興審議会の答申を最大限に尊重しつつ、従来のスポーツ振興施策を根本的に見直すとともに、市民との協働による新たな施策を見出すなど、中・長期的な視点に立って計画的なスポーツ振興を図ることを目的として「伊万里市スポーツ振興計画」を策定いたします。

## 2. 計画の基本理念と目標

スポーツは、人間の身体を動かすという基本的な欲求にこたえるとともに、爽快感、達成感、連帯感など精神的な充足感と感動をもたらし、人生を豊かにするものであり、健康の保持増進、体力の向上など心身両面にわたる健全な発達に資するものです。

また、スポーツとのかかわりは、住民相互の新たな連携の促進や地域の一体感や活力も醸成されるなど、世界共通の文化の一つとして、活力ある社会の形成に大きく貢献するものです。

このようななかで、今日の自由時間の増大や高齢化の進展など社会環境の変化によって、市民の価値観は多様化し、物質面だけでなく、精神的なゆとりと豊かさを追求するようになり、すべての市民が生涯にわたり、健康で明るく、活力ある生活ができる社会の構築が極めて重要な課題となっています。

このような状況を踏まえ、市民だれもが、いつでも、どこでも生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現できる環境づくりを推進し、スポーツが盛んで心身ともに健やかな人と地域づくりを図っていくことをスポーツ振興の基本理念とし、「元気」「輝き」「交流」をキーワードとして、以下の3つの都市像を目標に掲げ、その実現のための施策に取り組みます。

### 1. 元 気

**市民の誰もが、生涯にわたって健康で元気のある「伊万里」**

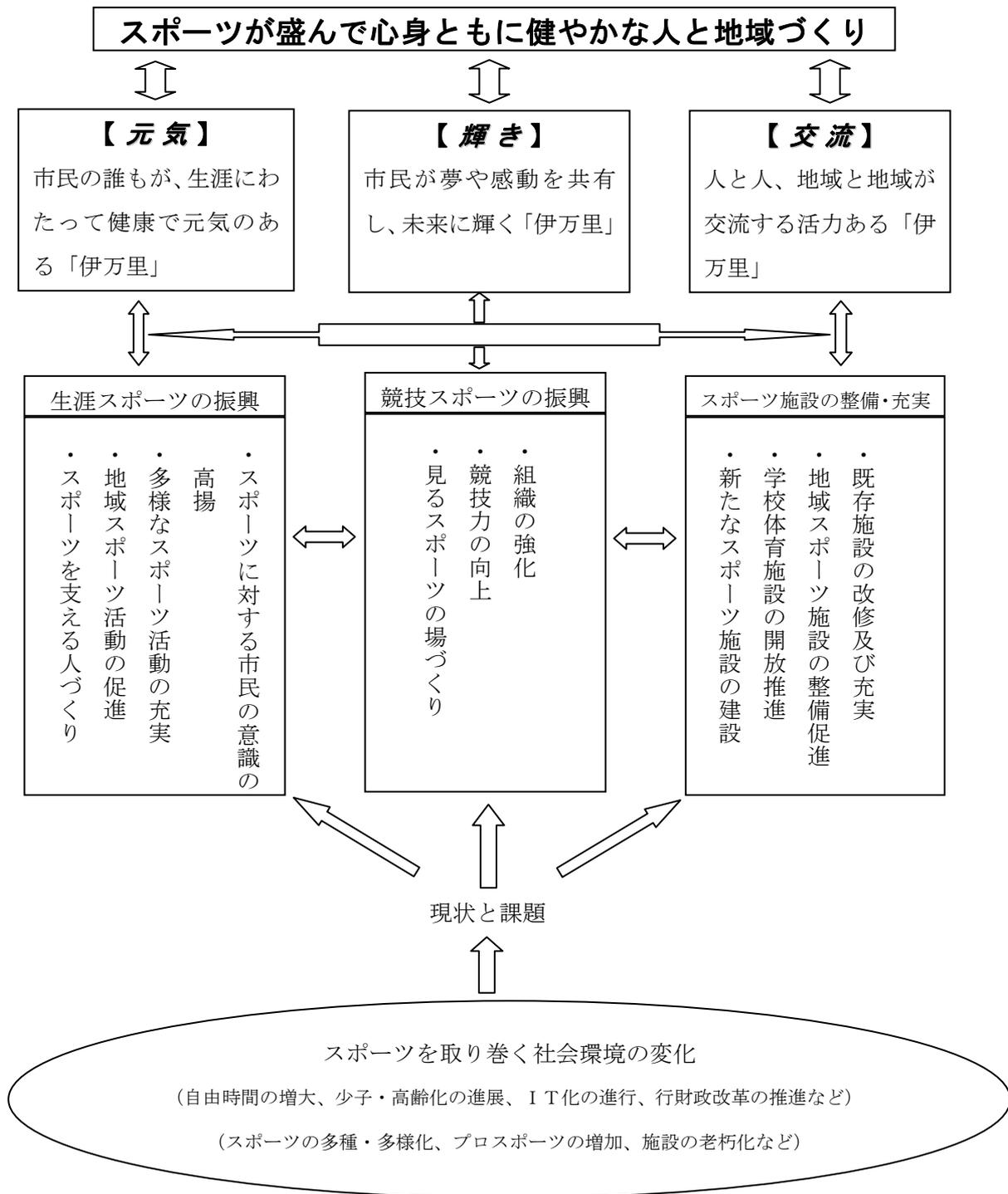
### 2. 輝 き

**市民が夢や感動を共有し、未来に輝く「伊万里」**

### 3. 交 流

**人と人、地域と地域が交流する活力ある「伊万里」**

### 3. 計画の基本体系



### 4. 計画の期間

計画の期間は、平成19年度から概ね平成30年度までとします。

なお、社会情勢や時代の変化に柔軟に対応するため、適宜、見直しを行い、効果的・効率的なスポーツ振興施策に取り組みます。

## 第2章 伊万里市のスポーツ振興における現状と課題

### 1. 生涯スポーツの振興

#### (1) 生涯スポーツの普及

伊万里市では、市民一人ひとりがそれぞれのライフスタイルに応じて、いつでも、どこでも気軽に楽しめるグラウンド・ゴルフやインディアカ、カローリングなどニュースポーツの普及に体育指導員を中心にとして取り組んでいます。



市さわやかスポーツ・レクリエーション祭

特に、グラウンド・ゴルフについては、地域や職場等で広く普及が図られ、各種大会も開催されるなど、その競技人口も年々増加傾向にあります。

また、各町公民館や子ども会等を中心に、市が所有するニュースポーツ用具の貸し出しも増えているなど、市民のスポーツへの関心は高まっていると考えられます。

しかし、「県民のスポーツ意識調査（平成13年度）」における成人（20歳以上）の週一回以上のスポーツ実施率では、県平均が27.1%に対し、伊万里市は10.9%と極めて低い実施率となっています。

このようなことから、市民のスポーツへの関心は高まっているものの、成人のスポーツが実践されていない現状に対応するため、市民が日常生活の中で主体的にスポーツに親しむことができるよう、スポーツに対する意識の高揚を図るとともに、自らスポーツに親しむことができる環境を提供していくことが必要であります。

また、各種スポーツ活動やイベントを行うためには、指導者や多くのスタッフが必要であることから、スポーツを支える人材を育成、活用していくとともに、大会運営にあたっては市民との協働により運営の充実を図るなど、各種スポーツ活動・大会等の継続に努めていく必要があります。

#### (2) 情報提供システムの整備

市民へのスポーツに関する情報については、現在、市広報や市ホームページ、ケーブルテレビなどを活用して提供しています。

しかし、一方向からの情報提供であるため、市民がどのような情報を求めているのかわからない状況にあることから、市体育協会等と連携を強化するなど、市民のスポーツニーズの的確な把握に努め、市民が求めるスポーツに関する情報を、あらゆるメディアを活用して積極的に提供していくことが必要であります。

### (3) 地域スポーツ活動の促進

伊万里市内には、13の地区単位で体育協会が組織され、体育協会を中心として町民体育大会をはじめ、各種スポーツ大会が実施されていますが、その活動も地域により格差が見受けられるとともに、これらの活動を支えるスタッフの高齢化も進んでいることなどから、地域スポーツ活動の活性化が求められています。

また、以前は地域でソフトボールやバレーボールのチームなどが結成され、スポーツを通じて住民相互の交流が深められていましたが、経済状況の変化や少子化・核家族化の進展、趣味の変化などにより、年々チーム数も減少し、地域の一体感や活力の低下も懸念されています。



市民ゲートボール大会

このため、地域における連帯感を醸成するため、住民相互のスポーツ交流を促進していく必要があります。

## 2. 競技力の向上と見るスポーツの場づくり

### (1) 競技力の向上

伊万里市においては、スポーツ振興の基盤となる組織として昭和29年に伊万里市体育協会が設立され、現在26の競技団体が加盟されています。



全国小学生陸上競技交流大会優勝報告

このようななかで、各競技団体では大会や講習会等を通して競技者の育成、強化に取り組まれ、全国大会等で好成績を挙げるチームや選手を輩出しております。

特に、近年の市内小・中・高校生の各種スポーツ大会での活躍は目覚しく、市民に大きな夢や感動とともに、地域に大きな活力を与えています。



第78回選抜高等学校野球大会入場行進

しかし、競技団体の中には少子・高齢化の進展等により、競技人口の減少や競技者の高齢化が進み、活動自体が停滞している団体が見受けられるほか、審判員等の確保など大会の運営等も危ぐされています。

また、専門の指導者不足や企業スポーツの衰退などにより、競技力のさらなる向上を目指し

て市外に進学又は就職していく有望な若者も増えてきているほか、中・高校に進学しても小学生の頃から継続している競技の部活動が存在しないため、競技を変更又は止めざるを得ない事態も生じています。

このようなことから、競技力の一層の向上を図るためには、競技団体の競技力の向上に向けた取り組みを促進するとともに、競技団体や学校等との連携を強化し、専門的知識を有する指導者の養成を行い、児童・生徒から成人まで一貫した指導ができるよう競技者の育成・強化を進めていく必要があります。

また、少子化によりスポーツクラブや部活動の存続も危ぶまれるなかで、学校の実情に応じてクラブ活動等を支援するなど、少子化に対応した取り組みを関係団体等と検討を進めるとともに、高齢化に対応した指導者や審判員等の確保を図っていく必要があります。

## (2) 見るスポーツの場づくり

スポーツは、自ら行うだけではなく、スポーツを競技場で観戦したり、テレビで見たりして楽しむ「見るスポーツ」としての関心も高まっています。

このようなことから、伊万里市においては、これまで甲子園常連校を招いての招待高校野球大会やプロ野球ウエスタンリーグ等を開催してきたほか、平成18年3月には競技団体と連携し、地方での開催は初めてとなる全国高等学校女子ソフトボール選抜大会を誘致、開催するなど、国内トップレベルの選手のプレーを市民が身近に観戦できる機会を積極的に提供するとともに、本市の競技力の向上にも大きく貢献しています。



第24回全国高等学校女子ソフトボール選抜大会開会式

また、平成19年7月には全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会が本市で開催され、市民のスポーツに対する関心は高まるものと期待されることから、この機運を今後のスポーツ振興にいかしていくことが重要であります。

しかし、これらのスポーツイベントには、多額の経費を要し、現在の本市の厳しい財政状況のなかで、市及び競技団体での経費負担は困難であることから、継続して開催することが難しい状況になっています。

また、全国規模のスポーツ大会の開催については、その会場となるスポーツ施設の充実が必要不可欠であります。しかし、本市においては、これまで野球やソフトボールなど比較的施設が充実している競技種目に限定されている状況にあることから、市民のスポーツへの興味や関心をさらに高めるためには、多種・多様なスポー

ツに利用できる総合体育館の建設が求められています。

### 3. 指導者の養成と指導体制の整備

#### (1) 指導者の養成

地域でのニュースポーツの指導など市民と行政とのスポーツの調整役となる体育指導委員は、毎月一回の定例研修会等において地域のスポーツ指導者として研鑽に努められていますが、今日の多様化するスポーツニーズに体育指導委員だけで対応していくことは困難な状況にあります。



市スポーツ少年団交流大会

また、子どもたちのスポーツ活動を支えている本市のスポーツ少年団の指導者数は、108名（平成16年度）と県内では最も多く登録され、指導者の研修会等にも積極的に参加されておりますが、近年、勝敗に重点をおいた競技スポーツ的志向が強くなっており、様々なスポーツ活動を通して子どもたちの体力の向上とスポーツ交流を通して豊かな心を育むという、スポーツ少年団の本来の目的から逸脱してきている傾向も見受けられます。

さらには、高齢化の進展等により、各スポーツ団体での指導者が高齢化してきているとともに、人材が不足してきていることから、次代を担う若い指導者の育成が求められています。

さらには、高齢化の進展等により、各スポーツ団体での指導者が高齢化してきているとともに、人材が不足してきていることから、次代を担う若い指導者の育成が求められています。

#### (2) 指導体制の整備

伊万里市では、市民のスポーツニーズに応じて、適切な指導を行うため県の社会教育主事（スポーツ主事）や体力増進指導員を配置するとともに、指導者の資質の向上を図るため全国大会等で活躍する指導者を招いての研修会等を開催するなど、指導体制の整備を進めてきましたが、多様化・高度化するスポーツニーズには十分対応ができていない状況にあります。



少年野球教室（福岡ソフトバンクホークス・柴原選手）

また、近年急速に普及してきているニュースポーツについては、体育指導委員を中心として普及が図られ、高齢者を中心としてゲートボールやグラウンド・ゴルフは種目協会も設立されましたが、幅広い年代層に普及を図るためには、指導者を育

成していく必要があります。

一方、競技スポーツにおいては、優秀な成績を収めていた児童が小・中・高校と進学していく過程のなかで、部活の指導者の変更による指導方法の違いなどから、成績も伸び悩む傾向が見受けられることから、一人ひとりの能力、適性を伸ばすための一貫した指導体制が求められています。

このようなことから、多種・多様化、高度化していくスポーツニーズに対応していくために、学校・地域・競技団体等が連携を一層強化し、市民の個々のニーズや競技力の向上に繋がる適切な指導ができる体制の整備を促進していく必要があります。

## 4. スポーツ・レクリエーション施設の整備充実

### (1) スポーツ・レクリエーション施設の整備

伊万里市では、昭和38年に陸上競技場を建設して以来、野球場、体育館、球技場、庭球場、武道館、弓道場など、市の中心部に位置する国見台公園に市民のスポーツの拠点となる施設整備を計画的に進めてきました。



伊万里湾大橋球技場

また、市有の運動広場や学校の屋外運動場への夜間照明施設、全天候型ゲートボール場をはじめ、平成17年度にはソフトボールなど多目的に活用できる伊万里湾大橋球技場を新たに建設するなど、市民がいつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しむことができるよう施設の整備・充実を図ってきました。

しかし、ほとんどのスポーツ施設は、建設から年数が経過し、老朽化も進んでおり、特に多種・多様なスポーツで利用されている国見台体育館は、大会運営等にも支障を来していることから、競技団体や市民からも観覧席等を備えた新たな体育館の建設が強く求められています。

また、急速に普及するグラウンド・ゴルフをはじめとして、近年のスポーツニーズに対応した専用競技場や運動広場の建設も求められています。

### (2) 既存施設の充実

伊万里市のスポーツ施設は、学校統合により社会体育施設として移管を受けた運動場や体育館等の施設が多いため、県内の他市より比較的多く、市内の広範囲にわたって設置していますが、そのほとんどの施設は、建設から年数が経過し、老朽化も進んでおり、改修等を必要とする施設も増加してきています。

一方、地域においては、住民自ら運動広場やゲートボール場等を整備するなど、身近にスポーツに親しめる環境づくり活動も進められています。

このようななか、スポーツ活動の場となる施設の維持管理は、スポーツ振興を図る上で極めて重要であることから、利用者の安全確保を最優先に、スポーツ施設としての機能を維持するため年次的に改修等を行う必要があります。

また、受益者負担の原則も踏まえ、市・利用者等が相互に協力し、市民との協働による効率的な維持管理方法を検討していく必要があります。

## 第3章 伊万里市のスポーツ振興の基本的な方向性と具体的施策

### 1. 生涯スポーツの振興

#### (1) スポーツに対する市民の意識の高揚

市民が、それぞれのライフスタイルに応じてスポーツに親しむことのできる社会を実現するため、市民のスポーツニーズを的確にとらえ、市民へのスポーツ情報や機会を広く提供するなど、スポーツへの参加意欲や関心を高めるとともに、自己の健康や体力について認識を深めることができる機会を充実するなど、市民のスポーツに対する意識の高揚に努めます。



市ラジオ体操会

#### 【具体的施策】

- ◆市民の健康・体力に関する意識の啓発
- ◆市民のスポーツ意識に関する調査
- ◆各種スポーツに関する情報の提供と広報活動の拡充

#### (2) 多様なスポーツ活動の充実

スポーツを通して、市民相互の交流を深めるため、各種スポーツ大会やニュースポーツ教室を開催するなど、市民がいつでも、どこでも、気軽にスポーツに親しめる場の提供に努めます。

また、関係団体と連携し、ニュースポーツの指導や健康指導など市民のスポーツニーズに応じたスポーツ指導に努めます。



市さわやかスポーツ・レクリエーション祭

#### 【具体的施策】

- ◆ニュースポーツ用具の充実、利用促進
- ◆各種スポーツ大会・ニュースポーツ教室の充実

#### (3) 地域スポーツ活動の促進

住民相互の新たな連携や地域の一体感、活力を醸成するため、スポーツを通じた相互の交流や絆が深められるよう各地区体育協会や地域のスポーツ活動を促進しま

す。

特に、次代を担う子どもたちを地域で育成することは、健全育成はもとより、豊かな心や他人に対する思いやりも養われることから、学校・関係団体と連携し、子どもたちがスポーツ活動に気軽に参加できる環境づくりに努めます。

#### 【具体的施策】

- ◆各地区体育協会との連携強化、活動支援
- ◆地域における異世代間のスポーツ交流の促進



市スポーツ少年団剣道交流大会

### (4) スポーツを支える人づくり

多種・多様化する市民のスポーツニーズに対応するため、体育指導委員などスポーツの適切な指導を行える指導者の養成、活用に努めます。

また、スポーツは「行う」「見る」だけではなく、大会やスポーツイベントなどを「支える」関わりを通して、

スポーツの楽しさや人々との交流の喜びを感じ取ることができることから、市民のスポーツへの関心を更に高めるため、市民との協働による大会運営など、スポーツ活動を支える協力体制の構築に努めます。

#### 【具体的施策】

- ◆研修会等の開催による指導者の養成、活用
- ◆佐賀県スポーツボランティア制度への登録、活用促進



「歩きたくなる街 伊万里ウォーク」

## 2. 競技スポーツの振興

### (1) 組織の強化

スポーツ事業推進の基盤組織である伊万里市体育協会や競技団体、学校等が、それぞれの役割への認識を高め、主体的な活動や安定した運営等が図られるよう組織体制の充実・強化を促進します。



市公式野球審判協会講習会

また、児童・生徒数に応じた複数校での合同クラブ活動の導入や、若年層の指導者や審判員の育成など、進展する少子・高齢化に対応した対策について、競技団体や学校等と検討を進めます。

#### 【具体的施策】

- ◆市体育協会及び競技団体等の自立・活動促進
- ◆少子・高齢化に対応した組織体制の検討

### (2) 競技力の向上

全国大会等で活躍する競技者を育成するため、競技者・競技団体等の活動を支援するとともに、市体育協会や各競技団体、学校等との連携を図り、高い指導力や高度な専門知識を有した指導者の養成や、ジュニア期から一貫した指導体制を構築するなど組織的・計画的な選手の育成に努めます。



陸上競技教室(講師: 福島大学 川本和久氏)

また、優秀な選手の市外・県外への流失をできるだけ少なくするため、学校部活動の強化や企業スポーツクラブの設立を促進するなど、競技団体・学校・企業等との連携による地域に密着した競技スポーツの定着に努めます。

#### 【具体的施策】

- ◆スポーツ指導者研修会等による指導者の育成
- ◆競技団体や学校等の相互連携による指導体制の構築
- ◆企業スポーツクラブの設立促進

### (3) 見るスポーツの場づくり

競技力の向上はもとより、市民にスポーツを通じて夢や感動を与えるため、競技団体等との連携を図り、プロスポーツイベントや競技スポーツの全国大会等の誘致を促進するなど、市民への見るスポーツの場の提供に努めます。

また、平成19年7月に開催される全国高等学校総合体育大会ホッケー競



全九州高等学校選抜ホッケー大会

技大会には、全国から選手や役員等が来訪することから、選手が試合に集中できる環境を提供するとともに、選手や市民にとって思い出に残る大会となるよう関係機関・団体等との連携を図り、大会運営に万全な体制で臨みます。

#### 【具体的施策】

- ◆プロスポーツイベントや競技スポーツ全国大会等の誘致促進
- ◆平成19年度全国高等学校総合体育大会ホッケー競技大会の開催

### 3. スポーツ施設の整備・充実

#### (1) 既存施設の改修及び充実

老朽化している既存のスポーツ施設の適正な維持管理を図るため、利用者の安全確保を最優先として、施設の年次的な改修等に努めるとともに、老朽化具合や利用状況等を勘案しながら、施設のあり方について検討を進めます。

また、散弾銃射撃場の鉛問題については、地域住民の不安も大きいことなどから、射撃場の廃止に向けて、関係機関・団体等と協議を進めます。



高校総体に向けて改修された国見台陸上競技場

#### 【具体的施策】

- ◆既存スポーツ施設の年次整備計画の作成
- ◆施設の効率的な維持管理の実施
- ◆既存スポーツ施設のあり方についての検討

#### (2) 地域スポーツ施設の整備促進

地域のスポーツ活動の拠点であるだけでなく、住民相互の交流の場としても期待される地域運動広場等のスポーツ施設について、地域住民の自主的な整備を促進し、その支援に努めます。

#### 【具体的施策】

- ◆地域スポーツ施設の整備促進、支援



脇田運動広場

#### (3) 学校体育施設の開放推進

地域住民の最も身近にあるスポーツ施設として、その有効活用を図るとともに、多種多様なニーズに対応するため、学校と地域等が連携し、学校体育施設の積極的な開放を推進します。

**【具体的施策】**

- ◆学校と地域の連携による学校体育施設の開放推進



ママさんナイターバレーボール大会

**(4) 新たなスポーツ施設の建設**

市民のスポーツ活動の場としてはもとより、産業振興や文化交流の場などさまざまな効果が期待されるとともに、県西部地区のスポーツ振興を図る観点から、県立総合体育館の建設を強く働きかけます。

また、本市の財政状況や施設の必要性等も十分考慮しながら、多様化するスポーツニーズに応じた新たな施設の建設に向けて各種補助制度等の調査、研究を進めます。

**【具体的施策】**

- ◆県立総合体育館の建設促進
- ◆新たな施設の建設に向けた各種補助制度等の調査、研究

【 資料1 】

伊万里市スポーツ振興計画策定までの経緯

期 日	会 議 等 ・ 内 容
平成17年6月23日	○伊万里市スポーツ振興審議会 市教育委員会から審議会へ 「伊万里市のスポーツ振興について」諮問
平成18年8月 8日	○伊万里市スポーツ振興審議会 答申案についての協議
平成18年8月30日	○伊万里市スポーツ振興審議会 答申案についての協議 ○審議会から市教育委員会へ 「伊万里市のスポーツ振興について」答申
平成19年6月 8日	○伊万里市スポーツ振興審議会 「伊万里市スポーツ振興計画（案）」について
平成19年6月15日 7月13日	○伊万里市民意見提出手続（パブリック・コメント手続）の実施
平成19年7月25日	○定例教育委員会 伊万里市スポーツ振興計画策定

【 資料2 】

伊万里市スポーツ振興審議会委員名簿

(順不同)

氏 名	職 名 等
会 長 堀 田 博 (会 長) (井 手 正 範)	伊万里市体育協会長 (伊万里市体育協会長)
副会長 池 田 レ イ 子	伊万里市体育指導委員協議会副会長
前 田 ヌ イ	伊万里市地域婦人連絡協議会副会長
吉 田 洋 一	伊万里市老人クラブ連合会事務局長
桜 木 照 彦 (川 久 保 健 兒)	伊万里市スポーツ少年団本部長 (伊万里市スポーツ少年団本部長)
金 ケ 江 佳 代 (山 口 哲 也)	佐賀県西部地区高等学校体育連盟事務局長 (佐賀県西部地区高等学校体育連盟事務局長)
立 石 琢 磨 (石 本 清 文)	伊万里市中学校体育連盟会長 (伊万里市中学校体育連盟会長)
(副会長) 日 高 重 幸 原 口 紀 雄 中 嶋 八 重 廣 (石 橋 嘉 幸) (井 手 薫)	学識経験者 学識経験者 学識経験者 学識経験者 学識経験者

※職名は委員在任中のもの

※ ( ) は前任委員